

令和5年度第1回大口町子ども・子育て会議

日時：令和5年11月6日月曜日

13時30分～14時30分

場所：大口町健康文化センター1階

機能回復訓練室

事務局（課長）： [あいさつ・資料確認]

次第1：多川会長あいさつ

多川会長：[あいさつ]

健康福祉部長：[あいさつ]

次第2：協議事項

「大口町子ども・子育て支援についてのアンケート」実施について

事務局：[資料 説明]

多川会長：この件について、ご意見、ご質問はあるか。

大塚委員：このアンケートを書面で、1日で回答することは難しいと思う。設問を絞ることができたら、より有用な回答を得られるのでは。

事務局：子育て支援について幅広く聞くことで、計画の作成につなげることができる。

そのため、設問は多くなってしまいが、減らせるところは減らしていきたい。

また、より多くの回答を得たいと考えた際、WEB回答よりも書面回答のほうが良いと判断した。理由は、前回の調査（平成30年12月実施）の際、保育園・幼稚園を通じて調査票を配付、回収とした結果、回答率70.7%と多くの回答が得られたため。

岩根副会長：事務局の説明を受け、前回調査と異なる点や、働く側の視点で設問を作成されていることが理解できた。

問11の文言をもう少しわかりやすくできないか。

事務局：修正する。

岩根副会長：問26の育児休業の選択肢が、2年までしか設定されていないのはなぜか。

事務局：育児休業は、法定上最大2年まで取得可能。それ以降は、会社の福利厚生によるものであるため、2年としている。

松井委員：「保健センターの保健師（こども課）」とあるが、保健センターの保健師はこども課所属とは限らないので、修正してほしい。

事務局：修正する。

石木委員：前回の調査に回答したが、子どもの世話や仕事の合間に書面で回答するには、大変な量だった。また、自分に関係のない話が続くと、回答する気がなくなってしまう。回答率の向上についても、書面の印刷にお金や紙を使うくらいなら、回答者に何かしら還元するなど、他に方法があるのではないか。実施方法も含めて、時代に合わせた調査にしてほしい。

千田委員：設問の分岐が非常に多く、混乱しそうだ。子どもの世話をしながらじっくり書面を

読んで回答することは、難しいと思う。WEB回答なら、回答に応じて画面が転移するので、書面よりも回答しやすいのではないか。

水谷委員：今回の調査をWEB回答に切り替えることは難しいのか。

事務局：次回の調査では、必ずWEB回答としたい。

水谷委員：調査対象は何人くらいを見込んでいるか。

事務局：前回の調査では約1,220人が対象。今回もほぼ同数を見込んでいる。

多川会長：設問の分岐が多く、自身にあてはまらない項目を回答することを嫌う方もいらっしゃるのでは、配慮は必要だと思う。

藤田委員：子育てをする母親からは、子どもと遊んだ時の微笑ましい話を聞く一方で、「家庭には居づらい、ストレスを発散するために仕事に来ている」という声もある。自由記入欄でその声を拾えたら良いと思う。

石木委員：最後に自由記入欄が設けられているが、項目ごとに「〇〇について意見があれば～」と数行程度の自由記入欄を設けてはいかがだろうか。

事務局：今回の調査の実施方法も含め、いただいたご意見を基に、改めて検討したい。

多川会長：他にご意見、ご質問がなければ、協議終了とするがよろしいか。

[協議終了]

次第3：その他

事務局：「大口町子ども・子育て支援についてのアンケート」の調査結果については、令和6年2月開催予定の第2回大口町子ども・子育て会議で報告する。